特集：新型MAZDA3

2

新型MAZDA3のデザイン
Design for All-New Mazda3

土田　康剛*1
Yasutake Tsuchida

要　約

2010年に掲げたマツダのデザインテーマ「魂動（こどう）-SOUL of MOTION」で統一した商品群が一巡し，新型MAZDA3から魂動デザイン第2章の幕開けとなる。新世代への深化として日本の美意識に基づいた「引き算の美学」の体現を目指した。その上で，これまでよりデザイン表現の幅を拡げていく戦略を取る。

セダンは「凛」とした品格を備えた大人のセダン，ファストバックを「艶」っぽくスポーティなデザインとし，新世代の幕開けを飾るに相応しい二つの個性豊かなデザインを与えた。

エクステリアでは引き算の美学の考え方の下，従来の自動車デザインに用いられてきたシャープなキャラクターラインを廃し，リフレクションによる面造形で新世代の生命感表現に挑戦した。

インテリアでは人とクルマの一体感を作る心地よい空間を表現した。

Summary

Mazda's design philosophy "KODO -Soul of Motion" introduced in 2010 has been manifested on all previous generation models, and now it opens a new chapter starting from the All-New Mazda3. For the next generation, "minimalism (less is more)", a Japan's unique aesthetic, is pursued. Based on the concept, extensive design expressions are applied as a next generation strategy. Mazda defines the characteristic of self-restrained dignity in Japanese as RIN for sedans, while alluring sensuality as EN and sportiness for fastbacks, representing the beginning of the new generation.

For the exterior, the conventional sharp character-lines are eliminated in line with the minimalism concept. Instead, a delicately modulated use of light that glides over the body makes the car look alive.

For the interior, comfortable space is created, which delivers a sense of oneness between a car and a driver.

Key words : Vehicle Development, Design, Exterior/Interior, Color

1. はじめに

MAZDA3（アクセラ）は世界130国以上で販売され，累計販売台数600万台以上を記録したマツダの最量販車種であり，マツダの成長を支えてきたモデルである。デザインでは先代MAZDA3が2014年ワールドデザインカーオブジイヤーTOP3に入賞するなど市場評価も高い。

グローバルでは4代目となる新型MAZDA3は新世代商品群の幕開けを飾る重要な車種である。また魂動デザインで統一した商品群が一巡し，デザインの深化を見せる格好のタイミングである。深化した魂動デザインの布石として発表した2015年RX-VISIONと2017年VISION COUPEはこれまでのラインによる躍動の生命感から，光と影の移ろいが作りだすリフレクションによる生命感へと深化。これは古来より日本文化が大切にしてきた引き算の美学で，複雑な要素を徹底的に研ぎ澄ませることで，控えめながらも豊かな美しさを表現している。加えてふたつのビジョンモデルは新世代デザイン表現の幅を「艶と凛」に広げるマツダデザインの意志でもある。新型MAZDA3はこれらビジョンモデルの高い志を量産車で結実した最初の商品である。本稿ではそれを実現するため，これまでの既成概念に捉われない発想と挑戦により

*1 デザイン本部
Design Div.

具現化した，新型MAZDA3のデザインについて紹介する。

2. エクステリアデザイン

2.1　既成概念の打破

新世代商品群のトップバッターである新型MAZDA3デザインの使命は，これまでに以上にマツダとお客様の絆を強め，マツダブランドを更なる高みに導くこと。それを実現するためにこれまでのやり方や考え方に縛られることなく，ゼロベースの発想で取り組んだ。

その一例がセダンとファストバック，個性の特化（Fig. 1）である。「セダンとハッチバックは同じボディーで作らなければならない」，「ハッチバックにトランクを付ける＝セダン」といった既成概念に捉われることなく，それぞれ理想のデザインを追求した。その結果，それぞれのお客様が求める姿（セダンは品格とエレガンス，ファストバックはパーソナルでスポーティ）をデザインで素直に実現出来たと考える。

Fig. 1　Characters

2.2　デザインコンセプトとプロポーション

セダンのデザインコンセプトを「凛とした伸びやかさ」とし，このクラスのセダンでは達成が困難とされてきた，伸びやかなプロポーションと様式美を追求した。

一方ファストバックは「色気のある塊」をデザインコンセプトに掲げ，全ての要素を内側へと向けることで得られる圧倒的な塊の強さと凝縮感を実現。

その結果，MAZDA3という共通のネームプレートを持ちながらも大きく異なるプロポーションを実現。これまでにはないセダンとハッチバックそれぞれの個性が際立つデザインを達成した（Fig. 2）。

Fig. 2　Proportions

2.3　異なるフォルム「凛と艶」

セダンの造形テーマは「光のスピード」。フロントからリアに向けて一本の伸びやかなスピード感を表しセダンらしい「凛」とした伸びやかさを強調。ボディーサイドには上品で控えめなリフレクション＝光と影の移ろいを表現した（Fig. 3）。

Fig. 3　Speed of Light

ファストバックではコンセプトに掲げた「色気」を表現するため，従来の自動車デザインに見られたキャラクターラインを廃し，大胆かつドラマチックなリフレクションが見せる味わい深い生命感「艶」を表現した（Fig. 4）。

更に従来の自動車デザインではタイヤを強調するためのショルダー（肩）を用いるが，ファストバックではそのショルダーを引き算することでキャビンとボディーをひとつの塊としてとらえることで，他に類を見ないユニークな存在感を実現した（Fig. 5）。

Fig. 4　Drama of Light

Fig. 5　Cabin and Body as One

2.4　面のアーティスト活動

デザイン本部だけでは美しいデザインは描けてもお客

様に届く商品とはならない。これらの魅力的なボディーサイドはマツダデザイン本部が目指した「引き算の美学」に深く共感し，自分ごととして創意工夫したエンジニアと生産工場メンバー全員のチームプレーの成果である。これは研究開発部門と製造部門の関係が近い，スモールプレイヤーであるマツダならではのユニークな取り組み，「共創活動」によって初めて実現した。この共創活動は深化した魂動デザインの実現のため，製造部門自らが発意し「面のアーティスト活動」として，部門を超えた共創活動を実施。現在も改良しながら進化し続けている（Fig. 6）。

Fig. 6　Co-Creation Scene

2.5　エレメントデザイン

マツダとして共通のファミリーフェイスを活かしながら，それぞれの「表情作り」に注力。具体的にはセダンは水平方向のエレメントを用いて落ち着きと品格を持たせ，ファストバックには強靭なスタンスが作るスポーティ表現として「ハの字」を強調した。マツダファミリーフェイスの特徴である，シグネチャウイング形状は同じとし，セダンにはクロームメッキで品格を与え，ファストバックにはダークメタル調塗装を採用しスポーティさを強化，個性の最大化を図った（Fig. 7）。

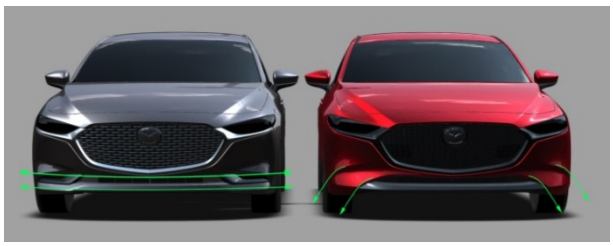

Fig. 7　Front Fascia

また，引き算の考えの下「ジャストオプティクス」をコンセプトに光りそのものを美しく機能的にデザイン。

マツダがこれまで拘ってきた「丸」モチーフを深さ方向に進化させ，ボディー造形と相まってシンプルながらも深みのある表情づくりに貢献している。また，リアランプでは丸4灯とし，夜間でも一目で新型MAZDA3と認識できる存在感を際立たせた（Fig. 8）。

Fig. 8　Lamp Design

3. インテリアデザイン

3.1　人とクルマの一体感

インテリアデザインでは人とクルマの一体感が作る人馬一体空間を目指した。そのためにステアリング・メーター・ルーバーをドライバー中心に完全左右対称に配置し，それらをドライバーに正対させた。その上で，深化した魂動デザインのキーとなる「引き算」を表現。コクピット以外の無駄なノイズを徹底的に研ぎ澄ませることで，まるでクルマと対話しているかのような運転に集中できる心地よいインテリア空間を実現した（Fig. 9）。

Fig. 9　Cockpit Symmetry

3.2　水平軸

助手席に向けて水平軸を通し，視線が自然と誘導される空間構成とした。通常コックピットを強調すると助手席が蔑ろにされることが多い。新型MAZDA3ではこの水平軸を構成することで前席同士，横のコミュニケーション誘発を狙った（Fig. 10）。

更に後席のドアトリム構成は素材・デザインともに前席と同じとすることで，乗員全てに同様の上質かつ平等の快適な室内空間を提供した。

Fig. 10　Horizontal Axis

3.3　作り込み

乗員が一番触れやすい高さにダブルステッチのソフト素材のミドルパッドを採用し，それをカラーキードすることでこれまでにないインテリアデザインテーマを特徴づけた。

「素材がカタチを作る」をキーワードにインテリアの作り込みを徹底。柔らかい革を固く細い金属で締めることでそれぞれの素材が作りだすカタチを最大限表現。また，パーツ同士の分割ラインは陰に収める工夫をすることで，視覚的なノイズを減らし，飛躍的なクオリティの向上を図った（Fig. 11）。

Fig. 11　Craftsmanship

4. ユーザーインターフェース

4.1　表示と操作の統一

新型MAZDA3からマツダコネクトを始めとする全てのグラフィックスを刷新。視覚的な文字やサイズ，色を合わせるだけに留まることなく，操作の触覚やフィードバックをも統一することで，インテリア空間全体の調和を図った（Fig. 12）。

Fig. 12　Interface Design

更に，表示と操作の統一も新たに取り組んだ。具体的には操作するコマンダーの動き（回す・押す）と表示されるグラフィックスパターンを同期させることで，乗員が迷うことなく，直感的に操作できることを目指した（Fig. 13）。

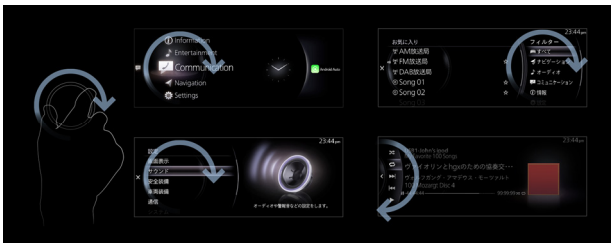

Fig. 13　Graphics & Operations

5. カラーデザイン

5.1　エクステリアカラー

ブランドカラーであるソウルレッドクリスタル，マシーングレーを中心に，ファストバック専用色としてポリメタルグレーメタリックを追加した全9色を用意した。新規開発したポリメタリックグレーメタリックは樹脂がもつ独特のヌメリ感と硬質な金属の融合をイメージした新色で，ファストバックデザインの特徴である光と影の移ろいを一層際立たせてくれる新しい質感表現。「カラーも造形の一部」を目指すマツダデザインならではの考えにより実現した（Fig. 14）。

Fig. 14　Polymetal Gray Metallic

5.2　インテリアカラー

上級グレードにはブラック・ピュアホワイト・バーガンディの革内装を用意。ブラック革内装にはステッチとマイクロパーフォレーションの裏地にチャコール色をアクセントとすることで，黒の中にも温かみを感じるコーディネーションとした（Fig. 15）。

更に，エモーショナルなエクステリアに呼応する赤い内装色をファストバック専用として設定。バーガンディと名付けた赤い内装は成熟された大人が似合う赤を目指した（Fig. 16）。特にポリメタルグレーメタリックとの組み合わせは，ファッションに強いこだわりをもち，高い審美眼を持った新規層を魅了すると期待している。

また，黒布内装でも温かみと深みを感じていただくた

め，チャコール色のステッチとメイン材を用いることで，エントリーグレード＝黒く・暗く・安っぽい，といったこれまでのイメージからの脱却を狙った（Fig. 15）。

Fig. 15　Black Leather & Black Fabric

Fig. 16　Burgundy

5.3　2層パネル

シフトパネルには，深い透明感を持ちながら光を受けると奥底から精緻な柄が浮かび上がる，新しい2層成型のバイオエンプラを採用。レーザー加工で柄を刻み込んだ1層目の黒いパネルと2層目のクリアパネルで構成。光が当たることで1層目のパネルが乱反射し，メカニカルな表情が浮かび上がる工夫をした。光の移ろいで表情を変化させていく，エクステリアのボディー造形のような豊かな表情を実現した（Fig. 17）。

Fig. 17　Shift Panel

6. おわりに

現在，自動車を取り巻く環境は，CASE（C：コネクテッド，A：自動運転，S：シェアリング，E：EV）がもてはやされている。遠くない将来，クルマは個人の所有物ではなくなり，これまで以上に人とクルマの関係が希薄になっていくかも知れない。そんな時代だからこそ，クルマが本来もっていた「所有する喜び，走る歓び」を最大限デザインで表現したい，これが新型MAZDA3へ込めた想いである。そのため，デザイン開発では，素直にお客様の心に響く・刺さるデザインを追求した。魅惑的な色気を追求したファストバックはずっと見ていても決して飽きることがなく，エレガンスと品格を突き詰めたセダンは，上質で落ち着きに満ちた大人を思わせる風格をもたせた。

新型MAZDA3のデザインは見る人の心を揺り動かし，人とクルマをより感情的に繋げることで，このMAZDA3がある生活がお客様の人生をほんの少しだけでも輝かきに満ちたものになれば幸いである。

■著　者■

土田 康剛